

週日の説教

金 大烈 神父 2011年10月11日(火)

《器の中身を美しく ～善いことをしようとすれば、善い方になる～》

今日の福音(ルカ 11:37 - 41)を読んで、二つのことを考えました。

まず、この場面の様子を想像してみましょう。あるファリサイ派の人がイエス様を食事に招きました。イエス様を好きではないけれど、本当に素晴らしいことをする人だと思ったから招いたわけです。その時、イエス様の気持ちはどうだったのでしょうか。やはり迷いがあったでしょう。あまり好きではない人から食事に招かれたら、いくらご馳走が出てもおいしく食べられるはずはありません。そういう人間的な感情が浮かんだと思います。しかしイエス様は行きました。招いたファリサイ派の人は、口にしたわけではありませんが、イエス様の様子を見てこのように思いました。「この人たちは、なぜ私たちが伝統的に守っている食事前の儀式に従わないのか。なぜ手を洗わないのか。」と。その思いを見通したイエス様は叱りました。「愚かなもの」とか「偽善者」とはっきりおっしゃいました。普通の人ならば、その場では優しい顔を見せておいて、後から悪口を言うかもしれません。しかし、イエス様はその場ではっきりおっしゃいました。

では、私たちはどうでしょうか。イエス様のようにできますか。もし、イエス様のようなことをしたらどうなるでしょうか。きっとみんな、「あの人は変わった人だ。関わると大変なことになる。」と思い、逃げてしまうのでしょうか。イエス様はそのくらい、譲ることと譲ってはいけないこととはっきりさせた方でした。そして、何が本当に大事なことで、何が大事ではないのかをはっきり見せようとした方でした。ですから、間違えていると思えば、ご自分の命がかかっても、相手が誰であっても、はっきりおっしゃいました。子どもを抱き締めながら愛情深い表情を見せる、幼子のように純粋な心を持った方でしたが、しなければいけないことだと思えば、はっきりおっしゃる方でした。結局、イエス様の生き方は、いつ殺されてもおかしくないものでした。生きながらえることのできるような生き方ではありませんでした。ある意味で、あの十字架は当たり前のものでした。2000年前、イエス様はご自分の命をかけて一言一言をおっしゃったのだと思います。

私たちも、真実のため、正しいことのために、どのくらい命をかけようとしているのか、ふり返ってみる必要があると思います。今までずっとこのように生きてきたのだから、これから変えられる希望はない、とおっしゃるかもしれんが、そういう面では甘くなつてはいけないと思います。これからでも間に合うことはあります。本当に相手に正しいことを伝えるためには、自分の中にも正しくないところがあるのを見つけなければなりません。自分の中に悪いことを見ていない人は、知らないうちに自分の中の見たくないものを避けようとしているからでしょう。

イエス様の性格は、ある意味では本当にうるさい性格です。大変な性格です。炎のような性格です。しかし、この炎のような心があったからこそ、私たちには何が真実であるか分かったのです。感謝を

しましょう。

もう一つ、皆様に紹介したい話があります。日本語に訳されているかどうか分からないのですが、「幸せな偽善者」という短編小説があります。マクス・ビアボム(Max Beerbohm)というアメリカの作家が書いた小説です。その物語を紹介しようと思います。

その小説の主人公は、ジョージ・ヘル(George Hell)という男の人です。ヘル(hell)は英語で地獄の意味です。その名前の通り、彼は貪欲で破壊的で、放蕩な生活をしている人でした。いくら悪いことをしても自分の欲しいものは必ず手に入れようとする人でしたから、金持ちでした。

ある日、彼は偶然ジェニー・ミアという女性に出会い、すっかり心を奪われてしまいます。そして、食べることも眠ることもできないくらい彼女のことばかり考えるようになります。ジョージ・ヘルは、天使のようなジェニー・ミアと結婚したいと思いますが、自分の顔を見たら彼女に断られるだろうと思い、心を痛めます。そして、いろいろ悩んだ結果、腕のよい仮面屋に行き、聖人のような顔の仮面を作ってほしいと頼みます。何日もかけて仮面が出来上がり、かぶってみると誰も気がつかないくらい上手に出来ています。それがジョージ・ヘルであることに誰も気づかず、みんな笑顔で挨拶してくれます。それを見て彼は、大成功だと思えます。ただ、仮面を作った人と、唯一仮面に気づいた以前の恋人だけがそれを知っていました。その恋人は、ゲームボギーといい、以前は付き合っていましたが大喧嘩をして別れました。彼女は、すぐに仮面に気づいたわけでした。

しかし、ジェニー・ミアは、仮面をかぶっているジョージ・ヘルの優しい顔に心を奪われ、結婚を承諾します。ジョージ・ヘルは、名前もジョージ・ヘブン(George Heaven)に変え、二人は結婚します。ヘブン(heaven)は天国の意味です。結婚した二人は、周りの人がうらやましがらうくらい仲良く暮らします。しかしジョージ・ヘブンは、仮面をかぶっていることを妻に気づかれることを心配し、一生懸命に善いことをします。それは、妻に見せるためであると同時に、天使のような心を持つ妻を持たたことに償いをしなければいけない、自分も変わらなければいけない、と考えたからです。そのような思いで、施しをしたり助けの必要な人に手を伸ばしたりします。

ある日、仲の良い二人の噂が、ゲームボギーの耳に入ります。彼女は腹を立て、ねたみを感じます。自分と付き合っていた頃、ジョージ・ヘルはそのような優しい姿を見せたことはなかったのに、今は優しい人になっているのです。そのことに腹を立て、ジェニー・ミアに全てを知らせます。そして、ジョージ・ヘブンが妻と一緒にいるところにそっと近づき、仮面をはずしてしまいます。

どうなったと思いますか？

ジョージ・ヘブンは、自分でも気付かないうちに本当の聖人のような顔に変わっていたのです。

これは簡単な、短い小説です。

今日の福音の「器の外側だけ一生懸命に気にするのではなく、内側の中身を大事にしなければいけない」とおっしゃったイエス様の言葉をよく考えてみますと、これはファリサイ派に限る話ではないと思います。私たちの中にも、腐っているところ、痛んでいるところ、汚いところがあります。私は、

そういうところがあるのを認めます。それを、知恵を使ってどのように抑えるかが問題なのでしょう。

この簡単な小説をとおして、私たちには一つの希望が与えられます。人間は誰でも両面性を持っています。優しそうな顔をしている人も、その笑顔が全てではないことを私たちは分かっています。なぜならば、自分も鏡を見れば優しい顔をしているのに、そうではない時もあるからです。しかし、そのような条件のもとに生まれて生きている私たちでも、善い面を見よう、善いことをしようとすれば、自分でも知らないうちにだんだん善い方向に変わります。それを信じて歩いて行くのが信仰の道ではないかと、今日の福音を読んで考えてみました。

自分を正しく愛する方法の分からない人は、絶対に相手を愛することもできません。自分を正しく受け止め、赦せる、そういう能力のない人は絶対に相手を赦すことができません。これが、イエス様の強く強く教えたかった内容だと思います。

ありがとうございました。